



ローカル鉄道を未来に残したい!

～陸羽東線の維持に向けた大崎市の挑戦～

文責：七十七リサーチ&コンサルティング 調査研究部 浅野 恵一



はじめに

利用者の減少が続くローカル鉄道を、地域はどのように支え、未来へ繋いでいくべきなのでしょう。

これは、人口減少やモータリゼーションの進展が進む中で、全国のローカル鉄道の沿線地域が共通して直面している課題でもあります。

JR東日本では、特に利用者の少ない路線(平均通過人員^{※1}1日当たり2,000人未満)について、地域の現状理解と持続可能な交通体系の議論を目的に、2022年から収支情報の開示を行っています。宮城県内では、石巻線、気仙沼線、陸羽東線、大船渡線の4路線が対象となり、沿線自治体に大きな衝撃を与えました。

本稿では、このうち陸羽東線を取り上げ、路線の現状と課題を整理するとともに、維持に向けて沿線自治体の大崎市と地域がどのように向き合い、取り組んできたの

かを紹介します。

このような試行錯誤を続ける「具体的な取組み事例」を示すことで、同様の問題に直面する他の地域にとって、良い示唆になると考えます。

鳴子峡を走行する陸羽東線の列車



【出典】一般社団法人 東北観光推進機構

① 地域の交通手段として活躍を続ける「陸羽東線」

陸羽東線は、1913年に開業し、1917年に全線開通した、小牛田駅(宮城県美里町)から新庄駅(山形県新庄市)までを結ぶ全長94.1kmの路線です。大崎市を東西に横断する本路線は、中高生や高齢者など、自動車を利用できない地域住民にとって、日常生活を支える重要な移動手段となっています。

沿線には、伊達政宗ゆかりの城下町・岩出山や、古代からの名湯である鳴子温泉郷など、豊かな観光資源も存在します。鳴子温泉駅には、JR東日本が運行するクルーズトレイン「TRAIN SUITE(トランススイート)四季島」が乗り入れ、市民によるお見送りが行われるなど、陸羽東線は観光面でも貴重な存在になっています。また、秋には鳴子峡の紅葉の中を走る列車風景が、多くの人々に親しまれてきました。

一方で、陸羽東線は厳しい現実にも直面しています。

鳴子温泉駅で市民のお見送りを受ける「TRAIN SUITE 四季島」

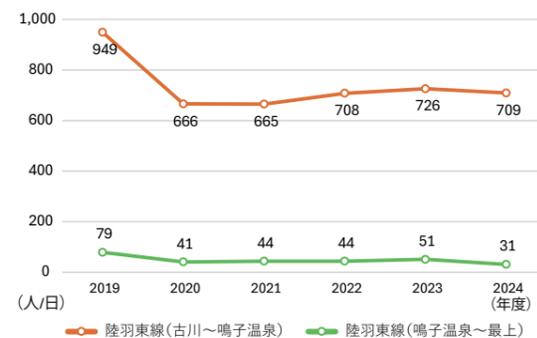


【出典】鳴子温泉観光協会公式ホームページ

モータリゼーションの進展や沿線地域の人口減少、さらにはコロナ禍の影響などを背景に、利用者数は大きく減少しています。JR東日本の公表資料によると、直近3年間の平均通過人員(1日1kmあたり)は、古川駅～鳴子温泉駅間で約700人、鳴子温泉駅～最上駅間では約30～50人にとどまっています。

また、100円の運輸収入を得るために要する営業費用は、過去6年平均で古川駅～鳴子温泉駅間が1,387円、鳴子温泉駅～最上駅間が17,039円となっており、財政的にも極めて厳しい状況にあります。

平均通過人員の推移(2019年度～2024年度)



【出典】JR東日本公表資料より、当社作成

※1 利用客の1日1kmあたりの人数であり、JR東日本では【平均通過人員】=【各路線の年度内の旅客輸送人キロ】÷【当該路線の年度内営業キロ】÷【年度内営業日数】で計算しています。

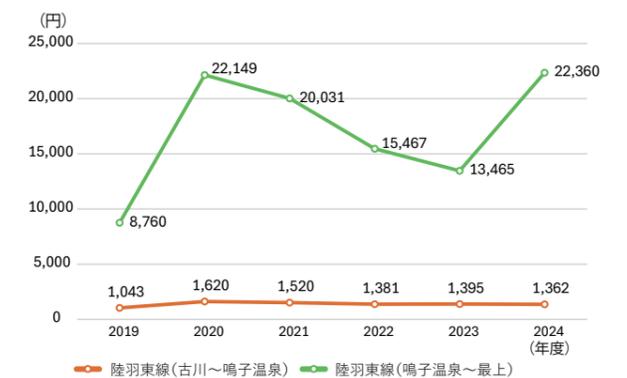


こうした数値を見ると、路線維持の難しさは明らかですが、地域住民の移動手段や観光列車による観光交流人口の創出などの面から、「利用者が少ない=地域にとって不要か」という問いは、決して数値だけで答えを出すことができないものになっています。

さらに、2024年7月の豪雨により鳴子温泉駅～新庄駅間が被災し、2026年1月現在も運転見合わせが続いています。復旧工事の着手が報じられている一方で、鳴子峡を走る列車の風景が見られない現状は、地域にとって、陸羽東線が日常や景観と深く結びついた存在であったことを改めて意識させるものとなっています。

こうした状況を受け、沿線自治体である大崎市では、陸羽東線を「残す前提」で捉え、路線の利活用促進を通じた維持に向けた取組みを進めてきました。

陸羽東線の営業係数の推移(2019年度～2024年度)



【出典】JR東日本公表資料より、当社作成

② 路線の利用促進に向けた大崎市の取組み

大崎市では、2022年10月から2023年3月にかけて、市独自に「大崎市陸羽東線再構築検討会議」を開催しました。本会議には庁内関係部署に加え、国や県、JR東日本などをオブザーバーとして迎え、古川・岩出山・鳴子温泉の各地域懇談会と連携しながら、路線の魅力発信や利活用促進策について検討を重ねました。

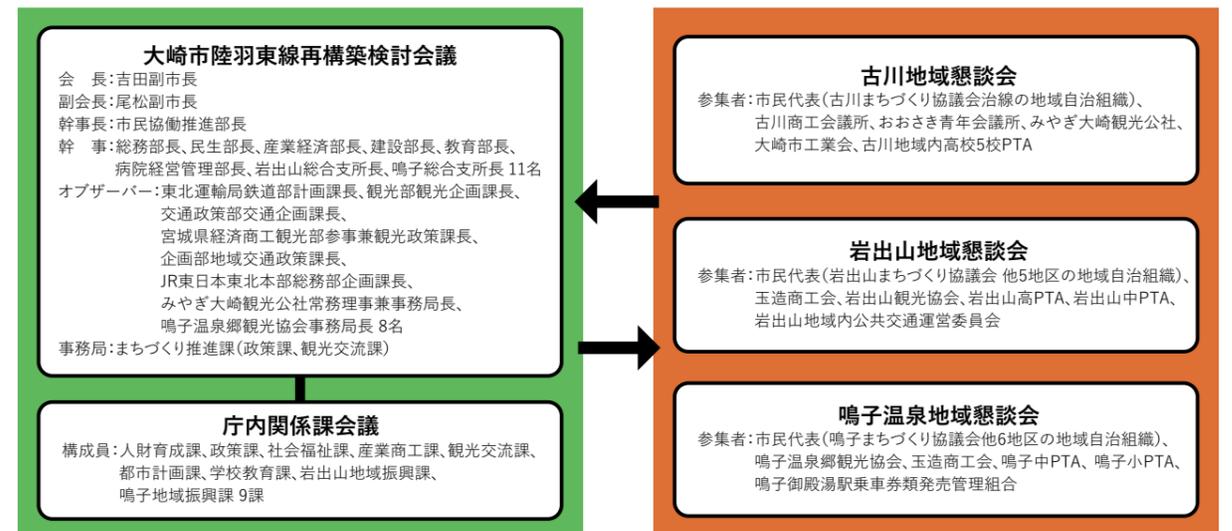
また、2022年9月には市職員を対象とした利活用促進アンケートを実施し、2023年1月から2月にかけては「公共交通通勤デー」を実施して利用状況調査をするなど、行政自らが利用の可能性を検証する取組みも行っています。

これらの検討結果を踏まえ、2023年3月には「陸羽東

線の利活用促進に関する検討報告書」が作成されました。同報告書では、古川駅～鳴子温泉駅間の平均通過人員について、2025年度に1,000人/日、最終的には2,000人/日とする目標が掲げられています。

さらに、「①公共交通の基軸となる市民生活路線」「②自然、景観等の観光資源豊富な観光路線」「③大崎を想う多くの人々が寄り添う路線」という3つの視点のもと、11項目の取組み事項が整理されました。特徴的なのは、市・市民・事業者など取組み主体を明確にしたうえで、生活利用、観光利用、関心喚起を組み合わせた点にあります。

大崎市陸羽東線再構築検討会議のメンバーと各地域懇談会のメンバー



【出典】大崎市「第1回大崎市陸羽東線再構築会議配布資料1」



陸羽東線の利活用促進に関する検討報告書で示された取組み項目

以下の11項目について、次の3つの視点で取り組むものとする。併せて、市、住民、事業者、関係機関との協働のもとに、各取組みを着実に推進することでSDGsの達成に貢献していく。

- ① 公共交通の基軸となる市民生活路線
- ② 自然、景観等の観光資源豊富な観光路線
- ③ 大崎を想う多くの人たちが寄り添う路線

No.	取組み項目	分類*
1	エコ通勤優良事業所認証制度の普及	日常
2	二次交通の整備(利便性の向上)	日常
3	「みんな」のマイレール意識向上	その他
4	駅のバリアフリー化、スマート化、周辺環境整備	その他
5	世界農業遺産「大崎耕土」の連携による観光の推進	非日常
6	観光地の活性化・まちの魅力向上	非日常
7	市の観光振興に向けた戦略の展開	非日常
8	利用促進イベントの開催、地域イベントとのコラボレーション	非日常
9	企画列車の定期運行	非日常
10	列車の付加価値向上	その他
11	地域を担う若者提案の実現	その他

【出典】大崎市「陸羽東線の利活用促進に関する検討報告書」
 ※【通学・通勤利用等=日常】【観光利用・イベント参加等=非日常】【その他】

2023年4月には、これらの取組みで示された具体的な事業の推進を図るため、専門部署として「陸羽東線利活用推進室」が設置されました。さらに同年8月には、検討会議を「陸羽東線利活用促進検討会議」と改称し、国・県・JR東日本も正式な委員として参画する体制へと移行しています。

この他、市による市民アンケートや利用実態調査を含む基礎調査の実施、地域団体による花壇整備やウォーキングイベント、のぼり旗の作成など、地域主体の取組みも広がっています。大崎市では、2025年度当初予算において陸羽東線利用促進対策経費を計上し、2026年1月現在も、利用団体への乗車費用補助、パーク・アンド・ライド専用駐車場の設置、フォトコンテストの開催など、継続的な利活用促進策が展開されています。

これらの取組みは、陸羽東線の厳しい現状を直視しつつ、市が主体的に関係者を集め、路線維持に向けた取組みを行っており、それに呼応し、地域住民による取組みの輪が広がっていることも注目されます。

岩出山公民館が中心となった、花壇の整備事業



【出典】岩出山地区公民館公式ブログ

大崎市公式サイトで公表されている具体的な取組み内容(2026.1時点で実施中のもの)

取組み概要	事業対象者	取組み内容
陸羽東線の利活用促進に関する意見・提案の随時募集	市民など	陸羽東線の利活用促進に関する意見の随時募集
陸羽東線パーク・アンド・ライド専用駐車場の設置	JR陸羽東線の利用者	岩出山駅、有備館駅、鳴子御殿湯駅に専用駐車場を無料で設置し、陸羽東線の利用促進を図る
陸羽東線の利活用のための啓発ロゴマーク	市民など	JR陸羽東線の利活用を啓発するためのロゴマークの作成
大崎市陸羽東線で出かけよう事業補助金(大崎市陸羽東線乗車利用促進事業)	市民等で組織する団体	参加者の乗車券購入費用の2分の1の額の補助
大崎市陸羽東線で体験学習事業補助金(大崎市陸羽東線乗車利用促進事業)	市内の保育所、幼稚園、小中等学校等の在籍児童等とその引率者	陸羽東線乗車区間の乗車券代に相当する額の補助
鳴子早稲田棧敷湯の利用割引	陸羽東線に乗車した早稲田棧敷湯の利用者	陸羽東線に乗車した、早稲田棧敷湯の利用者に対し、入浴料を大人100円引き、小学生まで無料とする
陸羽東線SNSフォト&ムービーコンテスト	イベント参加者	2024年度以降の秋から冬にかけて撮影された「陸羽東線」に関連する動画や写真をInstagramで募集
陸羽東線ビュースポット情報の募集	イベント参加者	大崎市内で陸羽東線の景観をより「魅力的に感じられる場所(ビュースポット)」の情報の募集

【出典】大崎市公式ホームページより当社作成

2025年度の予算説明会で提示された陸羽東線利活用促進対策経費

陸羽東線利用促進対策経費		6,995千円		
目的	陸羽東線の存続に向けて利用促進を図るため、アクションプランに基づき、沿線地域、自治体、交通事業者等が連携し事業を推進しながら、マイレール意識の醸成による市民利用の向上と観光客利用の増加を目指します。			
	■担当部課：市民協働推進部 まちづくり推進課 ■担当名：陸羽東線利活用推進室 予 算 科 目 2款 一般会計 1項 総務費 18目 地域交通対策費			
事業概要	対 象 (種・何に対して)	市民等の団体や(仮)大崎市陸羽東線地域活動協議会 など		
	実施内容 (具体的なやり方)	○利用促進に向けた外部識者の活用 ○陸羽東線乗車利用促進助成事業 ○陸羽東線各協議会等負担金の交付 ○地域おこし協力隊員による利用促進活動		
事業費の内訳 (主要なもの)	陸羽東線利活用促進アドバイザー報酬費 379千円 陸羽東線乗車利用促進助成事業補助金 680千円 (仮)大崎市陸羽東線地域活動協議会負担金 など 5,402千円			
	項目	当初予算額 (単位:千円) 令和6年度 令和7年度 備考		
事業費 財源内訳	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	その他	3,590	6,927	まちづくり基金繰入金
	一般財源	1,514	68	
事業費	5,104	6,995		

【出典】大崎市「令和7年度当初予算案説明資料」

③まとめ

本稿では、大崎市において、自治体と地域住民が一体となって進めてきた陸羽東線の利活用促進に向けた取組みを紹介しました。「陸羽東線の利活用促進に関する検討報告書」には、地域懇談会や高校生タウンミーティング、市民提言など、計338件に及ぶ意見が掲載されており、路線に対する市民の高い関心と熱意がうかがえます。

338件の意見の中には、現在は未着手であるものの、今後の可能性を感じさせる提案も含まれています。例えば、市民提言の「クラウドファンディングを計画して費用に充てる」という案は、同じ東北地方の只見線でも実績のある手法です。陸羽東線でも、民間団体による蒸気機関車の修繕・保存事業に活用された事例があり、今後の展開次第では有効な選択肢となり得ます。

ローカル鉄道の維持は、「存続か廃止か」という二者択一で判断できるものではありません。日常生活における移動手段としてだけでなく、観光や地域の歴史に深く関わる「地域のシンボル」など多様な存在価値があるからです。地域がローカル鉄道をはじめとした公共交通をどのような存在として位置づけ、地域の将来を考えながら、どのように関わり続けるのかが問われています。

陸羽東線は、筆者の出身地を走る思い出深い路線でもあります。利用者の減少や豪雨災害など厳しい状況に直面しながらも、「陸羽東線を未来に残したい」という関係者の強い意思こそが、これらの取組みの本質であると感じています。本稿では、市および地域における取組みを紹介してきました。これらの取組みが、読者の皆さまにとって関係者の思いや背景への理解を深める一助となり、地域全体での共感の広がりや、今後の取組みの活性化につながることを期待します。また本稿が、読者の皆さま一人ひとりにとって、自身の地域における公共交通やインフラのあり方を改めて考える契機となり、具体的な行動へとつながるきっかけとなれば幸いです。

